

★総合評価における「評定」の基準
 A: 十分達成できた、B: 概ね達成できた、C: 達成できなかった

めざす児童像等	評価項目	評価指標	活動計画	自己評価			評価		学校関係者の意見	次年度への課題と改善策
				肯定的なアンケート結果			総合評価			
				児童	保護者	教職員	総合評価			
自ら考え学ぶ子ども(知)	わかる授業の実践	児童アンケートの肯定的な回答80%以上	・TTを活用し、個に応じた指導を行う。 ・1人1台端末を効果的に活用し、個に応じた指導を行う。 ・ユニバーサルデザインの考え方を授業に取り入れる。(焦点化・視覚化・共有化)	90.4%	95.6%	93.3%	B	○学校の求めている教育の姿を保護者に理解してもらう場が必要。 ○子どもの学力向上のためには学校の授業だけでなく、家庭の教育力も必要である。 ○机に向かう習慣を家庭でぜひつけてもらいたい。 ○ICT活用はこれからの教育に有効だが、昔からの伝統的な手法も組み合わせることで子どもの成長に有意義な授業を確立してほしい。	○読書習慣の育成のための学校内での取り組みを校内掲示や学級通信などで知らせ、家庭への啓発を継続して行う。また、週末の読書活動を継続し、家庭での読書活動の機会を増やす取組を計画的に実施する。 ○一人一台端末を効果的に用いて基礎学力のさらなる定着を図る。また、新しい生活様式に合わせたコミュニケーションツールを活用し、自己表現や他者へ発信できる機会を増やしていく。 ○わかる授業の実践のために、児童への関わりを深め、基礎基本の確認テスト等を充実させながらさらなる基礎学力の定着を図る。	
	言語力の育成	児童アンケートの肯定的な回答80%以上	・ホワイトボードを効果的に活用する。 ・作文読本や作文帳を活用する。 ・新聞読書感想文、作文読本へ出品する等して、目的や意図に応じて楽しく取り組むことができる工夫をする。 ・朝夕の会で課題を決めたスピーチに取り組むことにより、言語力の向上を図る。(おすすめの本・ニュースから・行事等)	88.6%	88.5%	93.3%				
	基礎学力の定着(学習習慣)	児童アンケートの肯定的な回答90%以上	・基礎基本の確認テストを実施する。(ミニテスト等) ・1人1台端末を用い、個に応じた指導を行う。 ・ドリル学習を継続する。 ・学び方の手順を作成し、学習習慣の意識付けに向けて学校全体で取り組んでいく。 ・保護者啓発を図る。	93.0%	92.9%	100.0%				
	読書習慣の育成	1日15分以上本を読む児童(80%以上)	・宿題にする等、音読の習慣化を図る。 ・子ども新聞を効果的に活用する。 ・月1回程度は図書室での読書の時間を取るようにする。 ・本を図書室で借りる時間をしっかり確保し、週末の宿題にする等、本を持ち帰る習慣を身に付けさせる。 ・校内での読書活動の取組の視覚化を行い、情報公開をすることで啓発を図る。	85.1%	64.6%	100.0%				
	地域学習や体験学習の充実	各学年で年間3回以上実施	・地域人材を活用する。 ・地域へ出かけ、ひと・もの・ことに触れる機会を増やす。 ・校外活動や出前授業を効果的に実施する。	96.5%	93.8%	86.7%				
心豊かで助け合える子ども(徳)	あいさつの励行	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%以上	・各学期のはじめに、あいさつの意義やその効果についての指導を徹底する。 ・朝の会や帰りの会で、元気なあいさつを意識付けける。 ・柿原9ヶ条「元気な声であいさつ」を徹底する。	93.0%	90.3%	100.0%	B	○自発的にあいさつできる子どもが増えてきたように感じる。継続した指導をお願いしたい。 ○メディアの影響からか、言葉遣いの粗い子どもが若干いる。正しい言葉遣いを身に付けられるよう指導してほしい。	○自分からあいさつをすることができている児童もいるが、声が小さかったり進んでできなかったりする児童もいる。次年度は、日常生活の中で気持ちのよいあいさつや適切な言葉づかいができるように重点目標を掲げ、全校的な取組を継続していく。 ○児童の好ましい言葉づかいはその場で褒め、好ましくない言葉づかいはその場で指導するといった即時対応を徹底する。また、学年に応じた言葉づかいや正しい敬語の使い方を具体的に指導し、児童の言葉づかいに対する意識の向上を図る。 ○学級通信等を通して家庭との連携を図り、あいさつや正しい言葉づかいができるように保護者への協力を呼びかける。	
	言葉づかい	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%以上	・学校での教育活動全般において、その都度場に応じた言葉づかいについて指導を徹底する。 ・学年に応じた日常の言葉づかいや敬語の使い方を指導する。	93.9%	82.3%	100.0%				
	規範意識	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%以上	・柿原9ヶ条の見直しと徹底した広報活動を行う。 ・柿原9ヶ条を各委員会に割り振り、各委員会でその達成に向けて特色を活かし積極的に活動する。 ・学級話し合い活動について、声の大きさや話形のモデルを掲示し、校内で共通理解を図り、徹底する。 ・生徒指導上身に付けさせたいことを教職員が共通理解し、足並みをそろえて指導を徹底する。特に指導上必要がある場合には、ホームページ等を活用し、保護者にも呼びかける。	95.6%	95.6%	100.0%				
	自尊感情の育成	児童アンケートの肯定的な回答90%以上	・朝の健康観察を担任が必ず行い、一人一人の名前をきちんと呼ぶ。また、担任が児童一人一人を見守り、大切にされていると感じられるような一言をかける機会を多くもつ。 ・掲示場所や内容を見直し、自分の頑張りを発表できるように校内掲示をする。	92.1%		100.0%				
	仲間づくり	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%以上	・ソーシャルスキルトレーニングやオープンクエスチョン、構成的エンカウンター等を活用し、信頼ベースの学級づくりを実施する。 ・「今日のキラキラさん」や「ほめ言葉のシャワー」等の時間を帰りの会等に取り入れる。 ・学校の課題に対する取組を進め、仲間づくりや人権意識の高揚をはかる手立てや方策についての研修を深める。 ・学級での係活動の活性化を図り、児童一人一人の活躍できる場を設定する。	95.6%	99.1%	100.0%				
集会、行事等の充実	・各学期1回以上、全校集会(ロング)の実施 ・朝会やショート集会等で各学年、委員会、クラブが1回以上発表	・ユ-カリ班を基盤にした集会や行事を行う。 ・月に1回「キラキラタイム」を設け、全校児童で敷地内の美化活動を行う。	99.1%	97.3%	100.0%					

めざす児童像等	自己評価				学校関係者評価			次年度への課題と改善策
	評価項目	評価指標	活動計画	評価			学校関係者の意見	
				肯定的なアンケート結果 児童	保護者	教職員		
ねばり強く やり抜く子 ども(体)	交通安全指導	児童アンケートの肯定的な回答100%	・全学年での交通安全指導行事を実施する。 ・交通安全について学習した結果を保護者に周知する。	97.4%	95.5%	100.0%	B	○早寝・早起きについては、学校・保護者が連携・協力のもと指導していく必要がある。 ○学校でしっかりと外遊びの習慣をつけることで、家庭でも外遊びする機会が増えるのではないか。
	早寝・早起き	保護者アンケートの肯定的な回答80%以上	・スマイルチェック(睡眠・朝ご飯・読書・宿題)を配付し、睡眠の大切さについて指導する機会を持つ。	78.1%	80.5%	100.0%		
	朝食の摂取	保護者アンケートの肯定的な回答90%以上	・各学級で学年の発達段階に応じた指導を行う。 ・給食試食会に栄養士を招き保護者への啓発を行う。	98.2%	93.8%	100.0%		
	外遊びの励行(体力向上)	保護者アンケートの肯定的な回答80%以上	・高学年主体の自主的なユウカリ班活動を実施する。 ・年間を通して縄跳び検定を実施する。	84.2%	71.7%	100.0%		
	徒歩通学(体力向上)	児童アンケートの肯定的な回答90%以上	・通学路の安全点検を実施するとともに、保護者への啓発を行う。 ・交通立哨を実施する。	89.5%	86.7%	80.0%		
信頼される 学校づくり	楽しい学校生活	児童アンケートの肯定的な回答95%以上	学校評価や生活アンケート、行事終了後の各種アンケートを活用し、各教育活動の改善・充実を一層図る。 ・中間期の見直し	96.5%	98.2%	100.0%	B	○アンケートを定期的に行い、子どもの思いや願いをしっかりと受け止めることは、いじめの早期発見・未然防止につながる。 ○特別支援教育は今後ますます重要になる。学校での体制整備・保護者への啓発をしっかりと進めていってほしい。
	保護者・地域からの信頼	保護者アンケートの肯定的な回答90%以上	・学級懇談や個人懇談を活用し、保護者との意見及び情報交換を行う。 ・学校評価や学校評議員会からの意見を反映し、教育活動や児童への指導を改善する。 ・中間期の見直し	93.8%	100.0%	100.0%		
	いじめ防止の取組	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%	・人権教育の実践より得られた成果や課題をもとにして、より具体的な取組を進めることで、仲間づくりや人権意識の高揚を図る。 ・業間や昼休みに児童と積極的にふれあい、いじめの未然防止に努める。 ・いじめ防止対策委員会を充実し、児童の実態や対策等について共通理解を図る。 ・年3回のアンケート調査後の迅速な聞き取りと管理職への報告を徹底する。 ・いじめ防止の取組等を保護者に積極的に広報する。 ・中間期の見直し	92.1%	93.8%	100.0%		
	相談体制の確立 ・特別支援教育の充実	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答90%以上	・相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、相談窓口を周知する。 ・スクールカウンセラーや関係機関との連携を密にし、必要に応じてケース会議を行う。 ・中間期の見直し	82.5%	91.2%	100.0%		
	危機管理体制の整備	保護者・教職員アンケートの肯定的な回答90%以上	・様々な危機に対応したより実践的な避難訓練や引き渡し訓練、防犯教室を実施する。 ・新組織や避難訓練等から明らかになった課題に基づき、防災管理マニュアルの見直しを行う。 ・関係機関とのより一層の連携を図る。 ・中間期の見直し	100.0%	99.1%	93.3%		
								○学校の新しい生活様式を徹底した教育活動に努める。学校行事については、状況をしっかりと見極め、見直し・改善に取り組むとともに、可能な限り、保護者に参加していただく機会を持ちたい。 ○コミュニティスクール制度を活用し、地域と一体となった教育活動を展開していく。 ○児童観察を入念に行い、心や体の変容にいち早く気付く体制づくりに努める。 ○スクールカウンセラーや養護教諭を中心に相談体制を整備し、児童の心のケアに努める。